



錦画百事新聞 第5号

丹波国如佐
郡由良村の
地ふりり
沖三里餘
の天島といふ島

此島は海鳥
の棲むを
西京新橋本町
橋本喜助目付
屋西東洞院本子
清兵衛の西人明治七年
五月小此島へてを圍益中も

あらむ事やゆらん
既小用意を趣き
るる小老人大明神といふ祠あり
て船人漁夫もたふふ未詣
まづのみひ誰訪ふ人もなく
西人の明神の前をたのみ木を折り露を
露を凌ぎ一夜臥し深更ふりり
島中まはりふさむと物音りつを
蒼魔神の羽鳥 小りやと疑味も
やらばやかと
夜も明るんも

見らふ此島は
挿か鳥の羽音しては散幾千を
死るあはれ其鳴音喧く音の大き
かて其石をさうらり鳥の糞
鳴を三五尺小埋か扱を圍益
の發明して世に圍益の許を
得てま岡社を設け鳥糞
田畑の肥し小南の波鳥の
夫費や入金を減せるといひ
大刻をおぼさる感心をも
り井と日新聞
千四百四号出り

編輯人 友島吉長
印刷人 前田嘉吉
大坂 前田嘉吉 八三六

錦画百事新聞5号 文庫10-8618-29

